

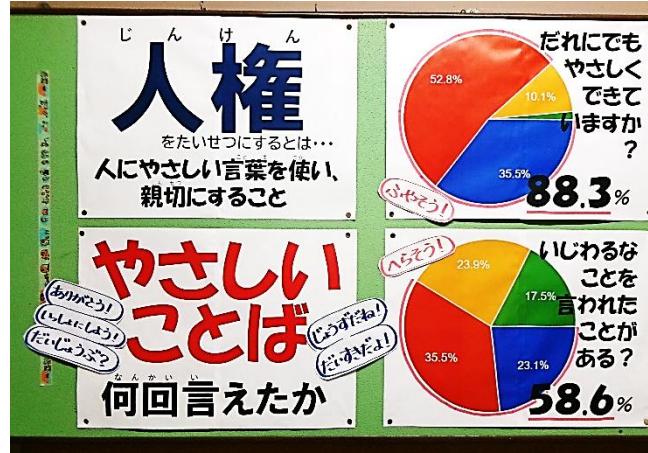


「高瀬舟」

倉敷市立船穂小学校 校長だより

令和7年11月12日 No. 139

再び人権について考える時期となっています



学校は「人権週間」になっています。人権に関する活動や教育相談などが行われます。

児童朝会でも、人権について「やさしいことば」を絡めてお話をしました。以下、その内容です。

「人権」を大切にするというのは、いつもみんながニコニコ元氣でいられるように、「やさしい言葉で友達と接すること」「やさしく親切にすること」です。それさえできたら、学校で勉強を頑張ることも、友達と楽しく遊ぶことも、友達と一致団結して行事をやりとげることもできます。

ところが、学校に来て、友達から悪口を言われる、いじわるをされる、友達から暴力を振るわれる、などがあったらどうでしょう。安心して、気持ちよく過ごすことはできません。

そんなことは、船穂の子どもたちは分かっています。1学期のアンケートの結果「だれにでもやさしくできている」人は88.3%もいるのです。ところが、おかしなことに「いじわるなことを言わされたことがある」人も58.6%もあります。みんなやさしくしているはずなのに変ですね。

いけないということは分かっているけど、いじわるなことがやめられない人がいる、またはいじわるなことを言っているのに気付かない人がいるということになりますね。それは自分のことでしょうか？友達のことでしょうか？

やさしい言葉って何でしょう？

「ありがとう」「いっしょにしよう」「大丈夫？」「上手だね」「大好きだよ」といった言葉はうれしいですね。

では、やさしくない、友達を傷つけるような「言葉遣い」は何でしょう？

「バカ」「死ね」「ウザイ」「殺す」といった、人を深く傷つけるような汚い言葉です。絶対に使ってはいけません。

でも、そんなことも、船穂の子どもたちは分かっていますよね。

でも、この話だけでは、まだみんな変われないかもしれません。

意識して「やさしい言葉を使う」ということが大切です。「使った数を数える」ということをしてみてください。難しければ、言われてうれしい言葉1位の「ありがとう」を1日、何回使えたかを数えるだけでもいいです。

やさしい言葉をいっぱい使って、学校を楽しいところにしていきましょう。